

米蔵跡落雁



そのかみの貢忘ず今も尚雁落ち来ぬる米蔵のあと 千住代
米蔵の跡にをちくる雁は秋の実りを知りて来にけん 春成
積みをきし蔵の俵に立ちろはで列を乱して落る雁 兎笑
雁もまなこをこゝにそゝひてし一とむれ落る米蔵のあと 兎笑
そのかみの貢納めし米蔵の跡に落来てあさるかりかね 千住代
みのりよき落穂や食まん初雁はよね納むなる跡に落来る 若芝
おのが飼をたくわへんとやあさるらむ米蔵あとに落る雁 梅雄
米蔵の跡と知りてかなれも又うしろやすげにあさるかりかね 陰行
荒れはてゝ野となり田ともなるこびき米蔵跡に雁のむれ来る 同
はるかなる雲跡落来て米蔵のあとにそあさる秋の雁群 本也
今もなほあさりやすらん米蔵の跡に落来る雁の幾群 同
こぼわつるよねやあらんと米蔵の跡に落来る雁のいくむれ 同
米蔵の跡も忘れずいくつらの雁落ち来ぬる秋の豊けさ 一誠
打かはし幾羽も雁の落来るはあさりよからん米蔵のあと 同
天津そら雲路はるばる落来つゝ雁あさるなり米蔵の跡 鴛楽
あさりよしと雁のいくつらおり来るは昔しのべる米蔵の跡 帰馬
としふりて今は野となる米蔵のあとに落来る雁の幾むら 系丸
そのかみの貢おぼへて米倉の跡にぞつとふ秋のかりむら 系丸
つみ入りし昔忘れず今もなほかり落来ぬる米蔵の跡 同
秋のよによねのこぼれをあさらんと雁落来ぬる米蔵のあと 鶴成
はるくゝと雲跡越へ来て雁の嬉しくあさる米倉のあと 花友